

# 渡良瀬遊水地見学会の資料 2020年2月11日

(渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会)

スライドNo.

- |   |                              |    |
|---|------------------------------|----|
| 1 | 渡良瀬遊水地の洪水調節の機能_____          | 2  |
| 2 | 渡良瀬遊水地の歴史_____               | 6  |
| 3 | 渡良瀬貯水池（谷中湖）の経過_____          | 13 |
| 4 | 渡良瀬遊水池を守る利根川住民協議会の取り組み_____  | 18 |
| 5 | 渡良瀬遊水地の乾燥化問題_____            | 23 |
| 6 | 渡良瀬遊水地まるごと博物館 エコミュージアム・プラン__ | 26 |
| 7 | 国土交通省による湿地再生計画（第2調節池）_____   | 30 |
| 8 | 渡良瀬遊水地についての最近の記事_____        | 35 |

# 1 渡良瀬遊水地の洪水調節の役割

洪水調節池化の工事

第1調節池 1971年

第2調節池 1972年

第3調節池 1998年

越流堤

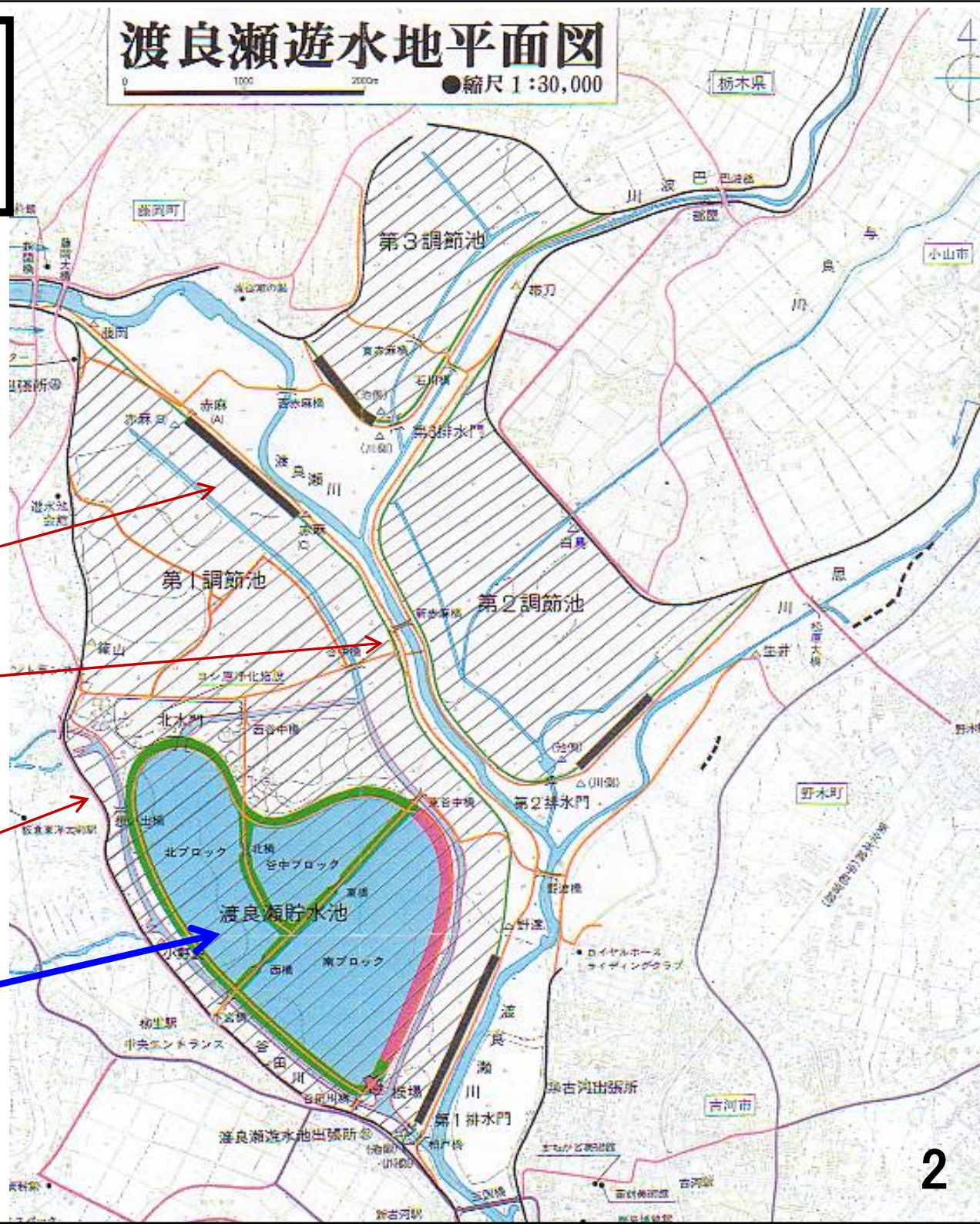
囲繞堤  
(いぎょうてい)

周囲堤

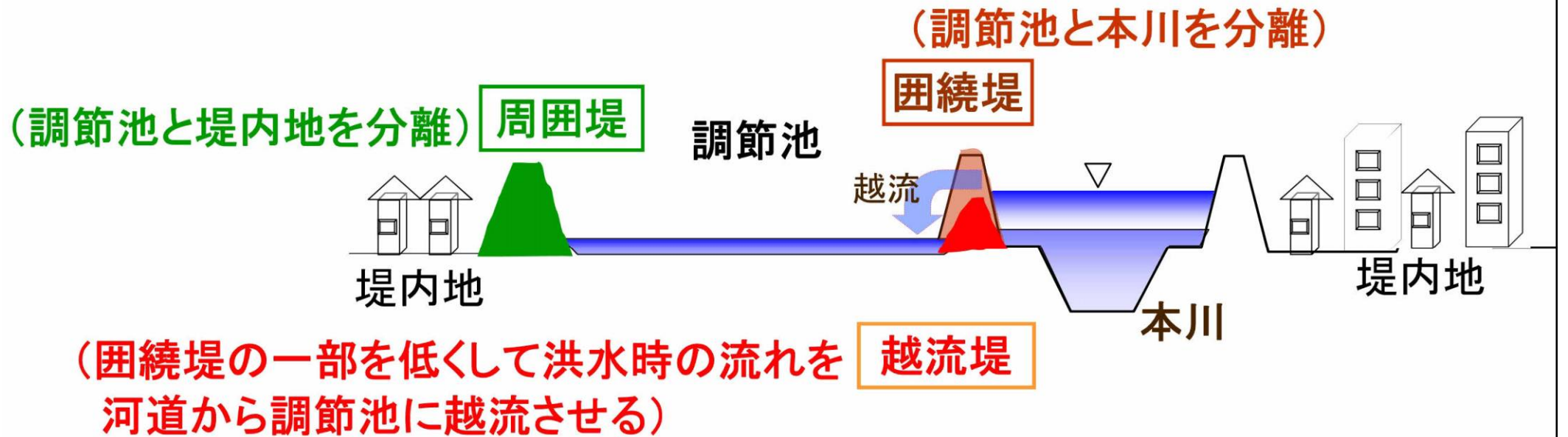
渡良瀬貯水池  
1989年

## 渡良瀬遊水地平面図

縮尺 1:30,000

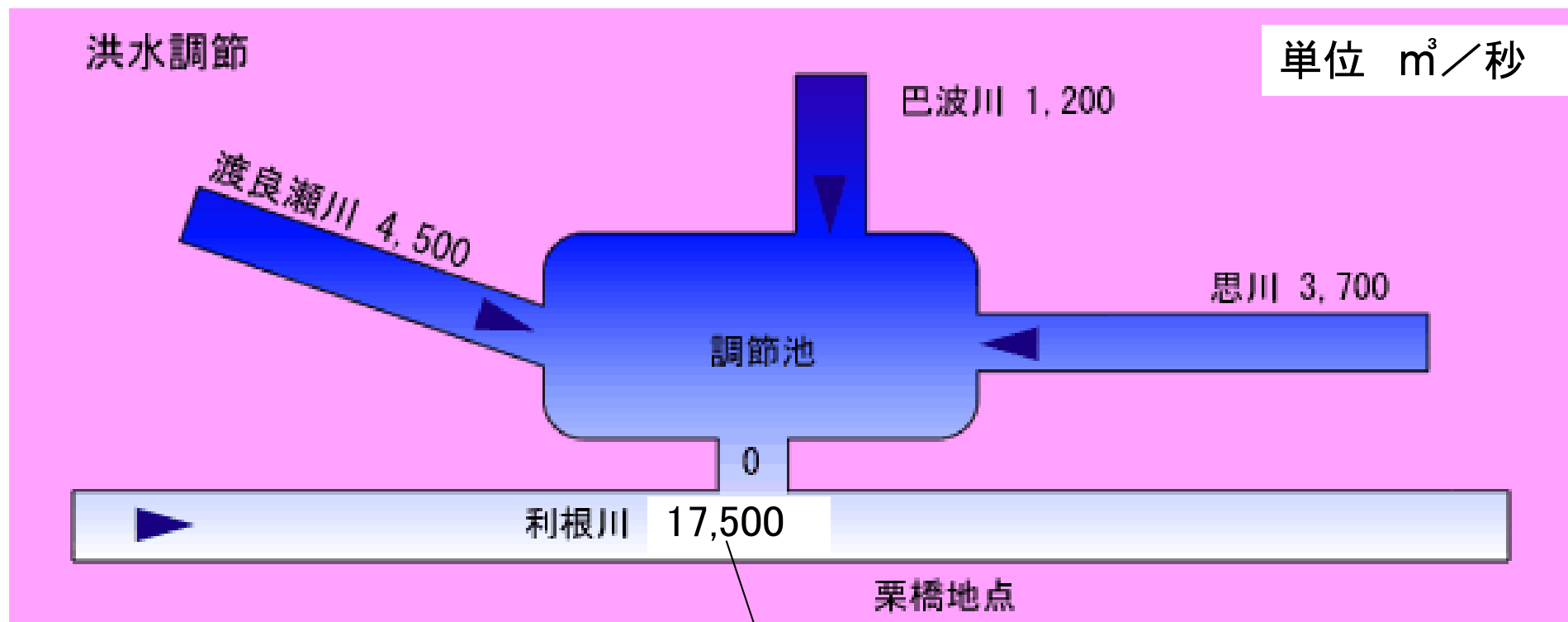


# 洪水調節池



# 渡良瀬遊水地の役割

渡良瀬川、思川、巴波川の洪水を調節して  
利根川の洪水への影響をゼロにする。



17,500 $\text{m}^3/\text{秒}$  (利根川水系河川整備基本方針(2006年))

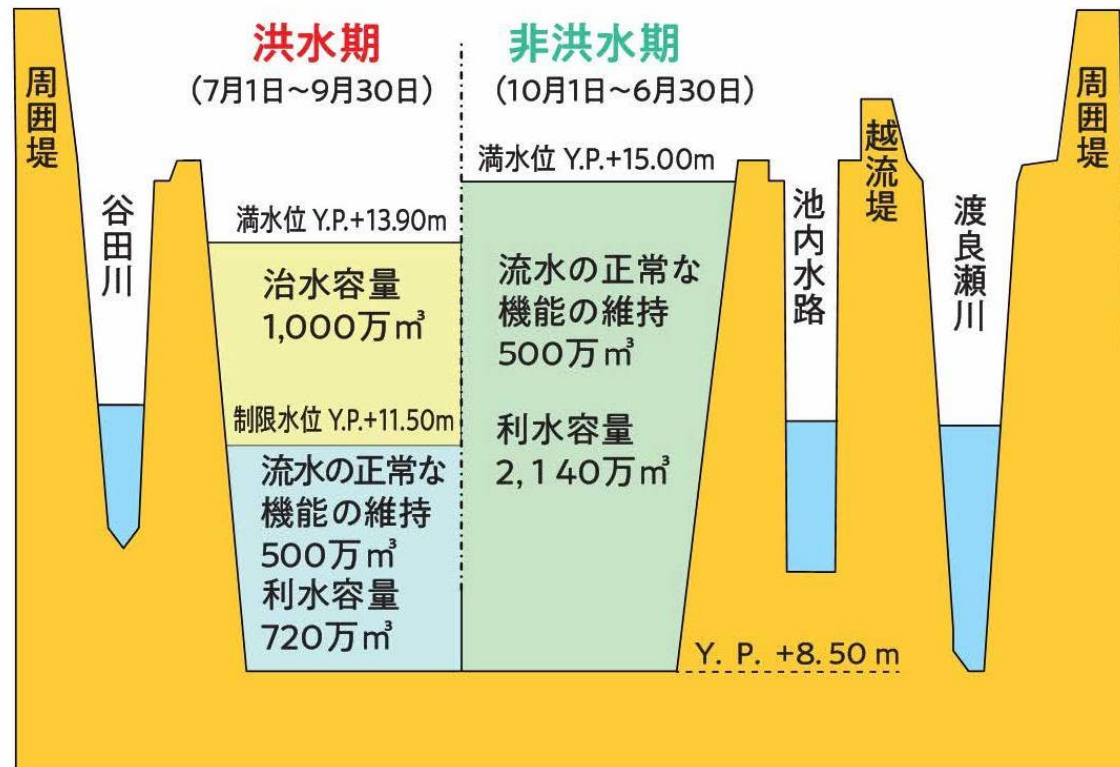
14,000 $\text{m}^3/\text{秒}$  (利根川・江戸川河川整備計画(2013年))

## 渡良瀬遊水地の洪水調節容量

- 第1調節池 11,710万 $m^3$   
(谷中湖の1,00万 $m^3$ を含む)
- 第2調節池 3,560万 $m^3$
- 第3調節池 1,910万 $m^3$
- 計 17,180万 $m^3$

第2調節池を掘削して洪水調節容量を500万 $m^3$ 増やす計画があったが、今はなくなっている。

## 渡良瀬貯水池の容量配分図



## 渡良瀬貯水池の諸元

貯水池面積：約4.5 $km^2$   
 総貯留量：2,640万 $m^3$   
 治水容量：1,000万 $m^3$   
 流水の正常な機能の維持  
 : 500万 $m^3$   
 利水容量：720万 $m^3$  (洪水期)  
 2,140万 $m^3$  (非洪水期)



# 渡良瀬遊水地がつくられるまで(1)

1877(明10) 古河市兵衛、足尾銅山精練所創業。

1885(明18) 足尾鉍毒、渡良瀬川沿岸に広がる。

1891(明24) 田中正造、第二回帝国議会で鉍毒問題を質問、鉍業停止を要求。

1896(明29) 大洪水、鉍毒被害は渡良瀬川・利根川・江戸川流域の1府5県におよぶ。。

1897～98 鉍毒被害民3回にわたる東京押し出し(要請行動)。

1900(明33) 第4回東京押し出しで川俣事件勃発。逮捕者100余名。鉍毒問題に世論高まる。

## 渡良瀬遊水地がつくられるまで(2)

- 1901(明34) 田中正造、国会で最終演説、議員を辞して明治天皇に直訴。
- 1904(明37) 正造、谷中村に入村。栃木県議会、秘密会で谷中村買収遊水地化案を可決。
- 1907(明40) 栃木県、谷中村残留民家屋を強制破壊。強制破壊後も残留民は仮小屋を作り、10年間たたかい続けた。
- 1913(大 2) 田中正造死去。
- 1918(大7) 渡良瀬川の付け替え工事完了。
- 1922(大11) 遊水地化の工事(築堤等)が完了。
- 1945(昭20) 遊水地に流入土砂が堆積し、赤麻沼が土砂で埋まる。



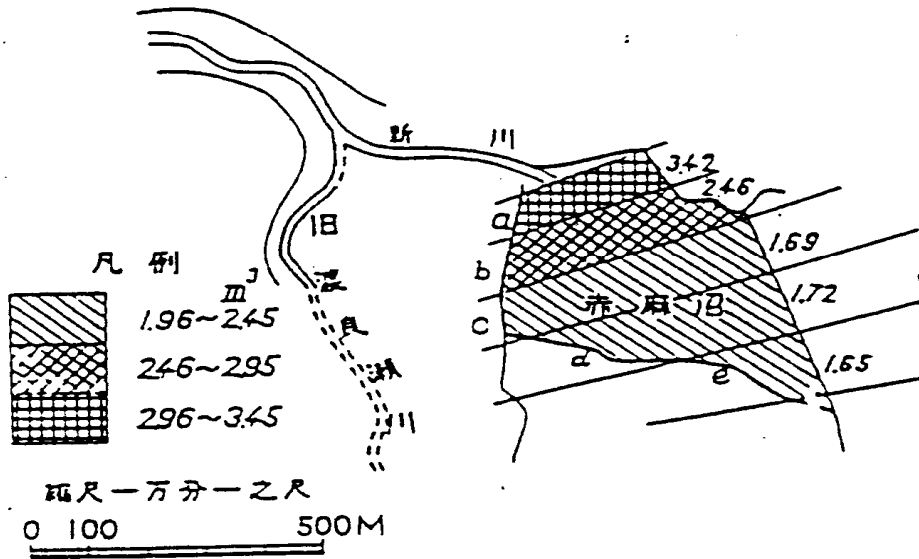
# 渡良瀬遊水地の建設目的

- ① 利根川の洪水対策
- ② 足尾鉍毒の反対運動の沈静化を図る。  
(遊水地によって氾濫を防げば、鉍毒被害もなくなるという幻想を与える。)
- ③ 巨大な鉍毒溜めをつくり、鉍毒が首都東京の市街地や千葉行徳の塩田に流下することを防ぐ。

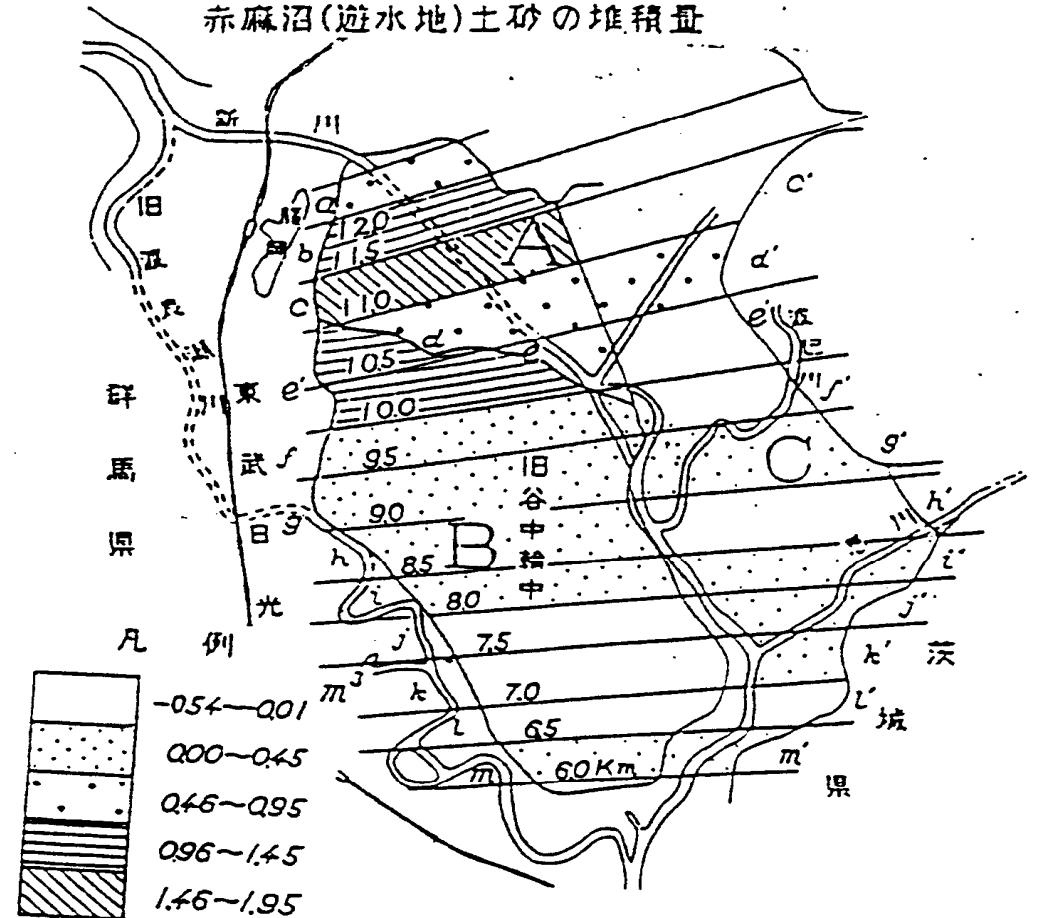
移転にあくまで反対する谷中村村民16戸の家屋を強制破壊して、渡良瀬川の付け替え工事は進められた。付け替え前の渡良瀬川は、現在の栃木・群馬の県境を流れていたが、赤麻沼に直結するように付け替え工事が行われた。

# 渡良瀬遊水地への土砂堆積 1945（昭和20）年には赤麻沼が土砂で埋まる。

明治36年(大正7年)より昭和16年に至る  
一平方メートル当り  
赤麻沼土砂堆積量



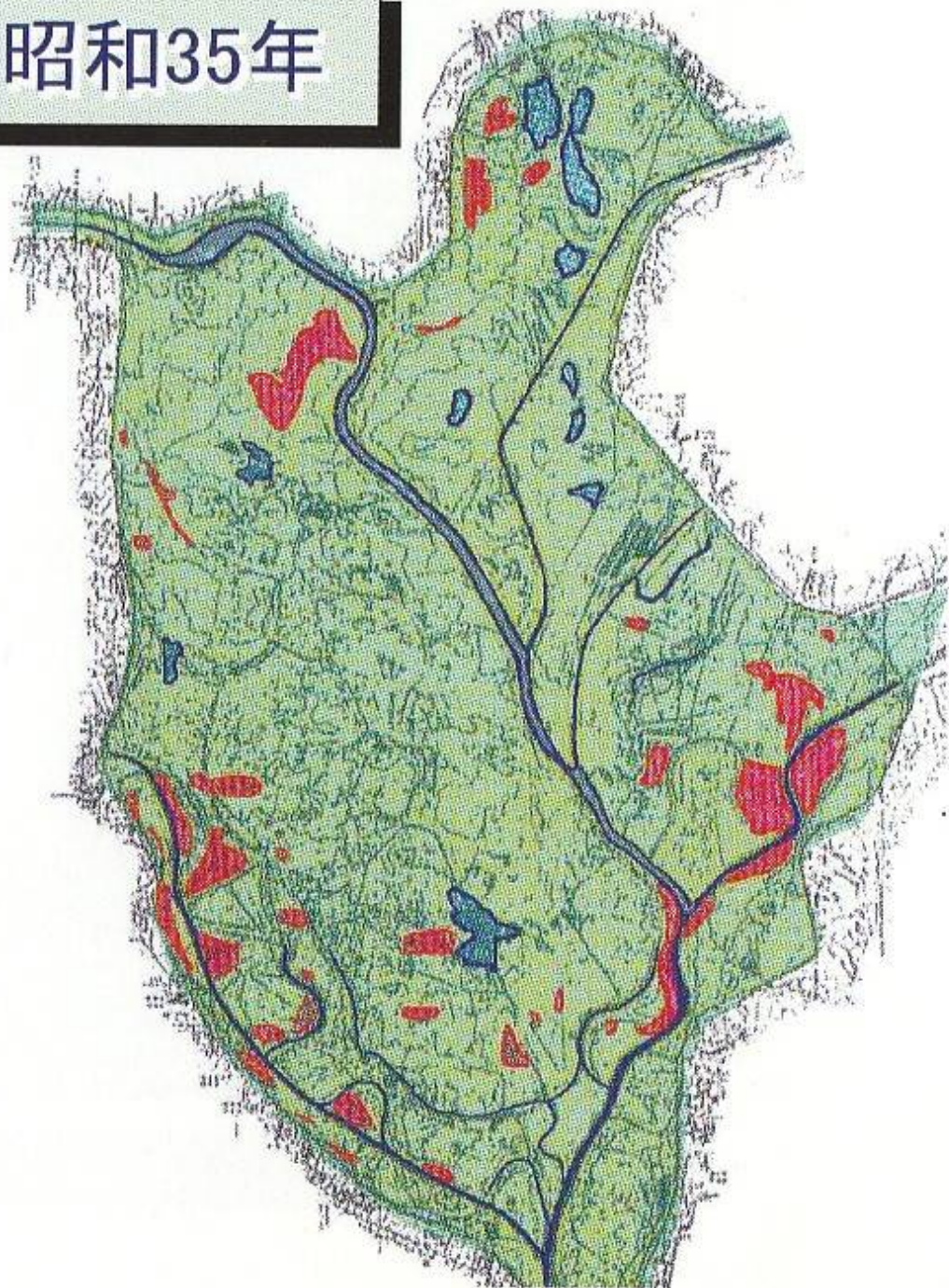
昭和16年より23年に至る一平方メートル当り  
赤麻沼(遊水地)土砂の堆積量



(資源科学研究所彙報 第530)

足尾地区から流出した鉍毒混じりの膨大な土砂が堆積していった。  
(年間堆積量 約70万 $m^3$ )

昭和35年



## 1960(昭和35)年の 渡良瀬遊水地

沼が点在する自然豊  
かな湿地へ

水面  
(池、沼、河川)

湿地、草原、林

耕作地  
(水田、畑等)

(出典:国土交通省「渡良瀬遊水地  
湿地保全・再生基本計画」

# 渡良瀬遊水地は本州以南最大の低層湿原へ

広大なヨシ原に多種多様な動植物

植物：約1000種

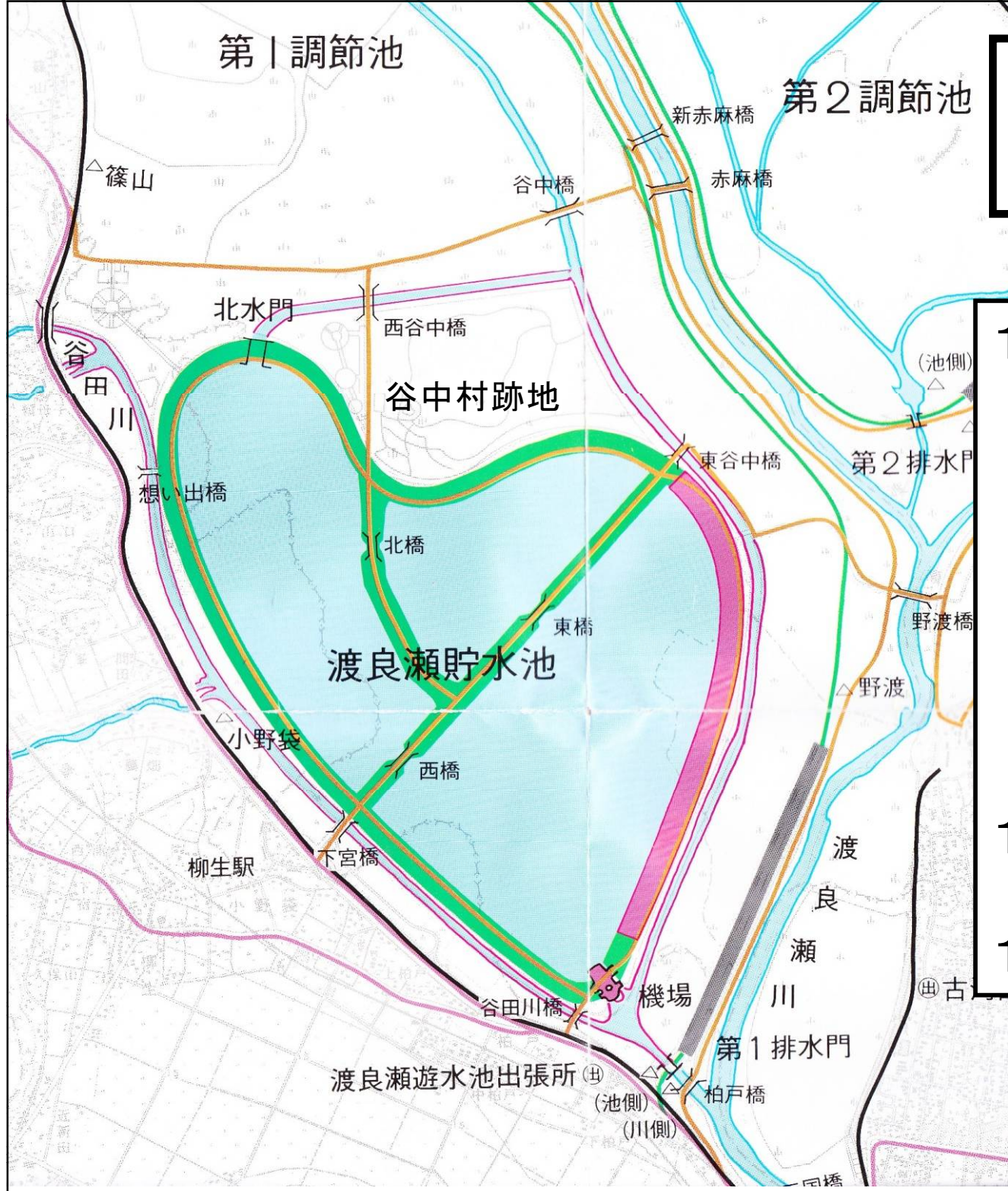
絶滅危惧種（準絶滅危惧種を含む）は、59種

昆虫：約1700種（絶滅危惧種23）

当地固有種も数多い（例．ワタラセハンミョウモドキ）

鳥類：252種（絶滅危惧種44）

特に目を引くのは、ワシタカ類、ハヤブサ類、フクロウ類など猛禽類の種数、個体数の多さ。今までの確認によれば、シタカ科15種、ハヤブサ科4種、フクロウ科5種、合計24種に及ぶ。



### 3 渡良瀬貯水池 (谷中湖)の経過

1972年5月  
貯水池計画が具体化  
谷中村跡地に杭が打たれる  
↓  
谷中村遺跡の保存運動  
↓  
ハート形の貯水池で合意  
1976年から掘削  
1989年完成

# 「谷中村遺跡保存の闘い」(針谷不二男)

1972年当時の写真

針谷不二男さん  
(2014年2月没、享年88歳)



貯水池計画反対闘争(左から1人おいて、針谷、秋山助役、水野勝作、岩崎正三郎の各氏

(「新・渡良瀬遊水池」(住民協議会)より)

# 渡良瀬貯水池(谷中湖)が引き起こした江戸川の水道水カビ臭事件(1990年8月)

## 渡良瀬貯水池の水利権者

使用先(利水事業名)		供給区域	水量
栃木県	小山市水道第3次拡張事業	小山市	0.350m <sup>3</sup> /s
	野木町水道事業	野木町	0.131m <sup>3</sup> /s
茨城県	県南広域水道用水供給事業	7市3町1村	0.505m <sup>3</sup> /s
埼玉県	埼玉県水道用水供給事業	39市20町	0.505m <sup>3</sup> /s
千葉県	千葉県営水道事業	7市	0.505m <sup>3</sup> /s
東京都	東京都水道事業	23特別区、23市、3町	0.505m <sup>3</sup> /s
計			2.501m <sup>3</sup> /s

# 濁水で味ダウン

東京・埼玉の水道水



たまり水またわたり水にカビ臭発生  
11月、野木町野木町リコンタから写す

## 応援放流裏目 養分多く汚れ?

「カビ臭い」苦情相次ぐ

「カビ臭い」苦情相次ぐ。渡良瀬貯水池から放流された水が、江戸川の水質を悪化させている。この水は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県に供給されている。この水は、カビ臭いという苦情が相次いでいる。原因は、渡良瀬貯水池の水質悪化によるものと考えられている。この水は、江戸川の水質を悪化させている。この水は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県に供給されている。この水は、カビ臭いという苦情が相次いでいる。原因は、渡良瀬貯水池の水質悪化によるものと考えられている。



東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県に供給されている。この水は、カビ臭いという苦情が相次いでいる。原因は、渡良瀬貯水池の水質悪化によるものと考えられている。この水は、江戸川の水質を悪化させている。この水は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県に供給されている。この水は、カビ臭いという苦情が相次いでいる。原因は、渡良瀬貯水池の水質悪化によるものと考えられている。

# 谷中湖における水質改善対策

## ■ヨシ原浄化施設

(H11～H13:20ha、H14～現在:40ha)

ヨシ原での沈降やヨシが栄養分を吸着する性質を利用し、貯水池水を浄化します。

## ■谷田川分離施設(H11～現在)

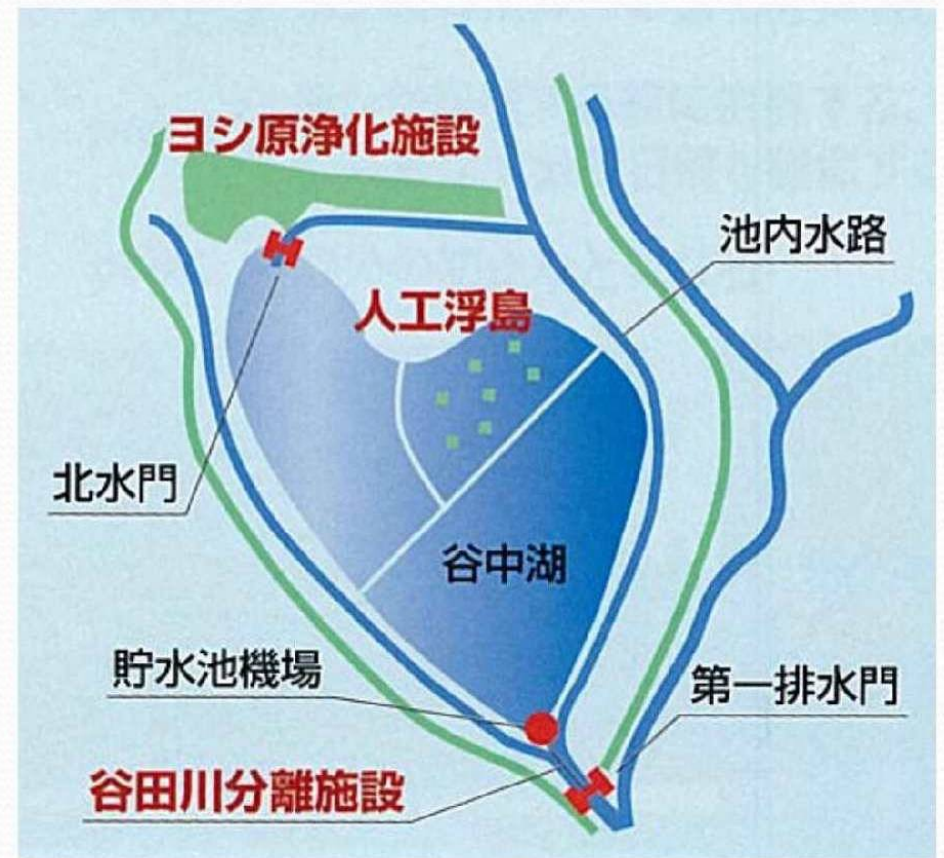
流入河川の谷田川をバイパスし、渡良瀬川の水を取水することで、貯水池の水質を改善します。

## ■干し上げ(H16～現在)

谷中湖の水を干し上げて、池底を天日にさらし、春から夏にかけて発生するカビ臭を抑制します。

## ■人工浮島(H11～現在)

遮光や栄養塩吸収などにより植物プランクトンの増殖抑制に寄与します。



ヨシ原浄化施設



谷田川分離施設



干し上げ



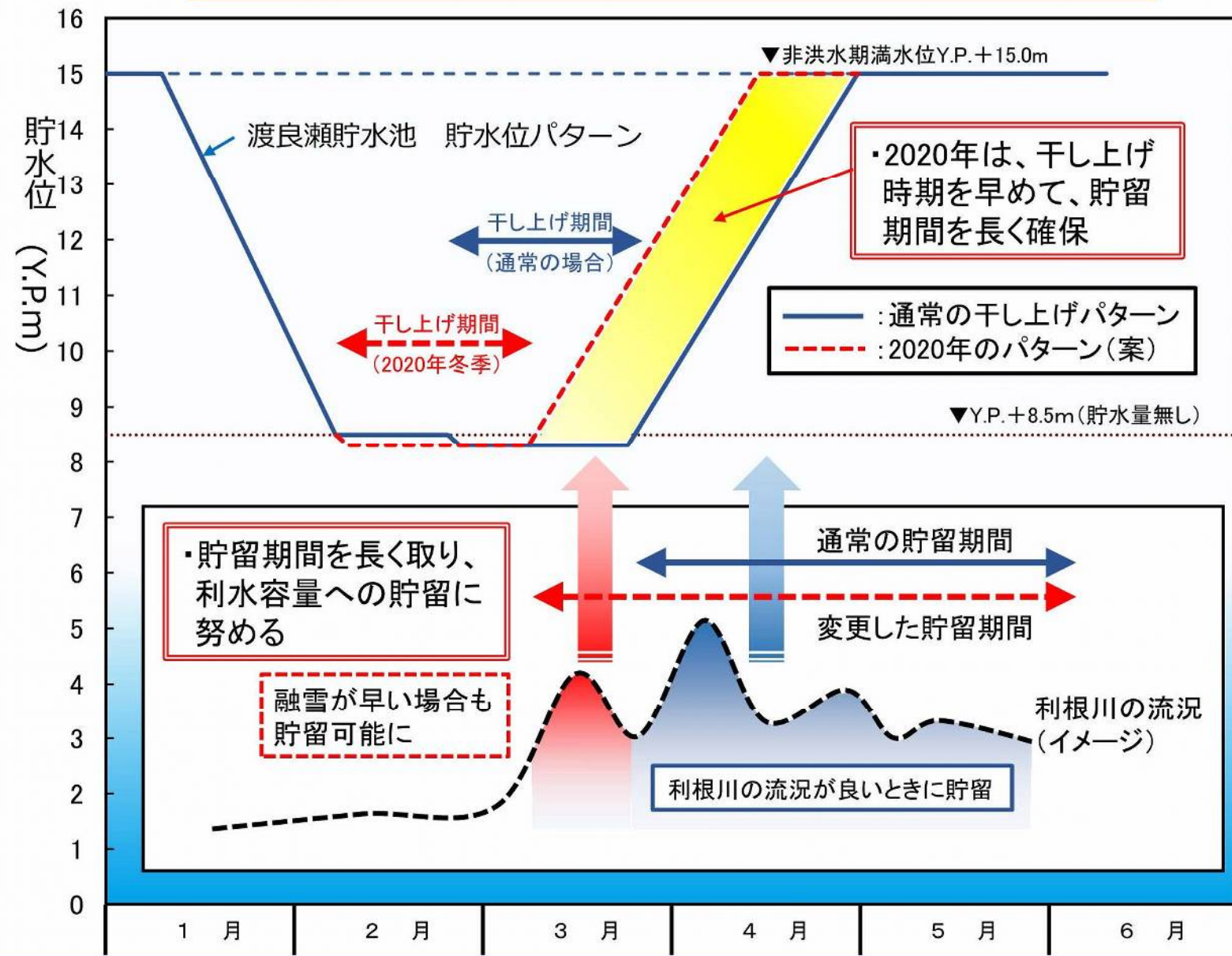
人工浮島



# 東京2020オリンピック・パラリンピック湧水対応行動計画（関東地方整備局）

2020年は、干し上げの時期を早めて貯留期間を長く取ることで、利水容量への貯留に努めます。

## 干し上げ時期の変更による水源確保（イメージ図）



# 4 渡良瀬遊水池 を守る利根川住民 協議会の取り組み

## 1990年、かけがえのない自然と公害の原点としての重い歴史を持つ遊水池を開発計画から守るために発足

# 渡良瀬遊水池を守れ!

### 関東6都県の自然保護16団体



# 利根川流域住民協議会を設立

一大レジャーランドとして開発せしめようとする渡良瀬遊水池の豊かな自然を奪うと、栃木、茨城、東京など関東六都県の自然保護関係十六団体が栃木市の市文化会館に集まり、このほど「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会」を設立した。同協議会は今後、渡良瀬遊水池内へのゴルフ場建設や第二貯水池建設の中止を要請、渡良瀬遊水池を水鳥の保護を目的とするラムサール条約(国際湿地条約)の登録候補地とする運動、中央の公害等調整委員への調停申請など、渡良瀬遊水池の自然を守る運動を展開していく予定だ。

# レジャーランド化反対へ

同協議会の設立は、渡良瀬遊水池の保護活動に取り組んでいる藤岡町の「水十十」等を考案する「町田武史会館」が七月初旬、渡良瀬遊水池の開発を進めている第三セクター「渡良瀬遊水池クリエーション振興財団」に対し、開発に関する公開質問状を提出したことがきっかけ。その後、八月下旬に小山市で開催された第六回水都全国会連の分科会の中でも同協議会設立が提案され、参加者の賛同を得ていた。

同協議会設立には、県自然保護団体連絡協議会代表の藤原信平大教授が設立呼び掛け人代表となり、自然保護関係団体の幅広い組織を呼び掛けた。設立総会には県自然保護団体連絡協議会、日本野鳥の会、県支部、田中正造会、茨城

県の渡良瀬湖の環境を考える会、東京の水を守る会、ゴルフ場問題千葉県連合会、群馬自然保護団体連絡協議会など十六団体の代表二十五人が出席。渡良瀬遊水池クリエーションランド計画の内容、内容、問題点、渡良瀬遊水池の現状、公開質問状に対する口頭回答などが報告され、渡良瀬遊水池の自然を守るための具体的な動きが確認された。

現状報告の中で、渡良瀬遊水池の土地に埋め込まれる湖の総容量が遊水池の二十一・三倍と非常に多い量を埋めた土壌調査結果や、渡良瀬遊水池には野鳥の種類、数が多く、渡り鳥にとって重要な内陸の水辺にあり、このため、開発計画は、自然環境に悪影響を及ぼす恐れがある。強制破壊された田舎中村など歴史的古蹟を考えた場合、渡良瀬遊水池がレジャーランドとして開発されてもいいのかという疑問、国際空港建設構想などに対する問題点も指摘された。

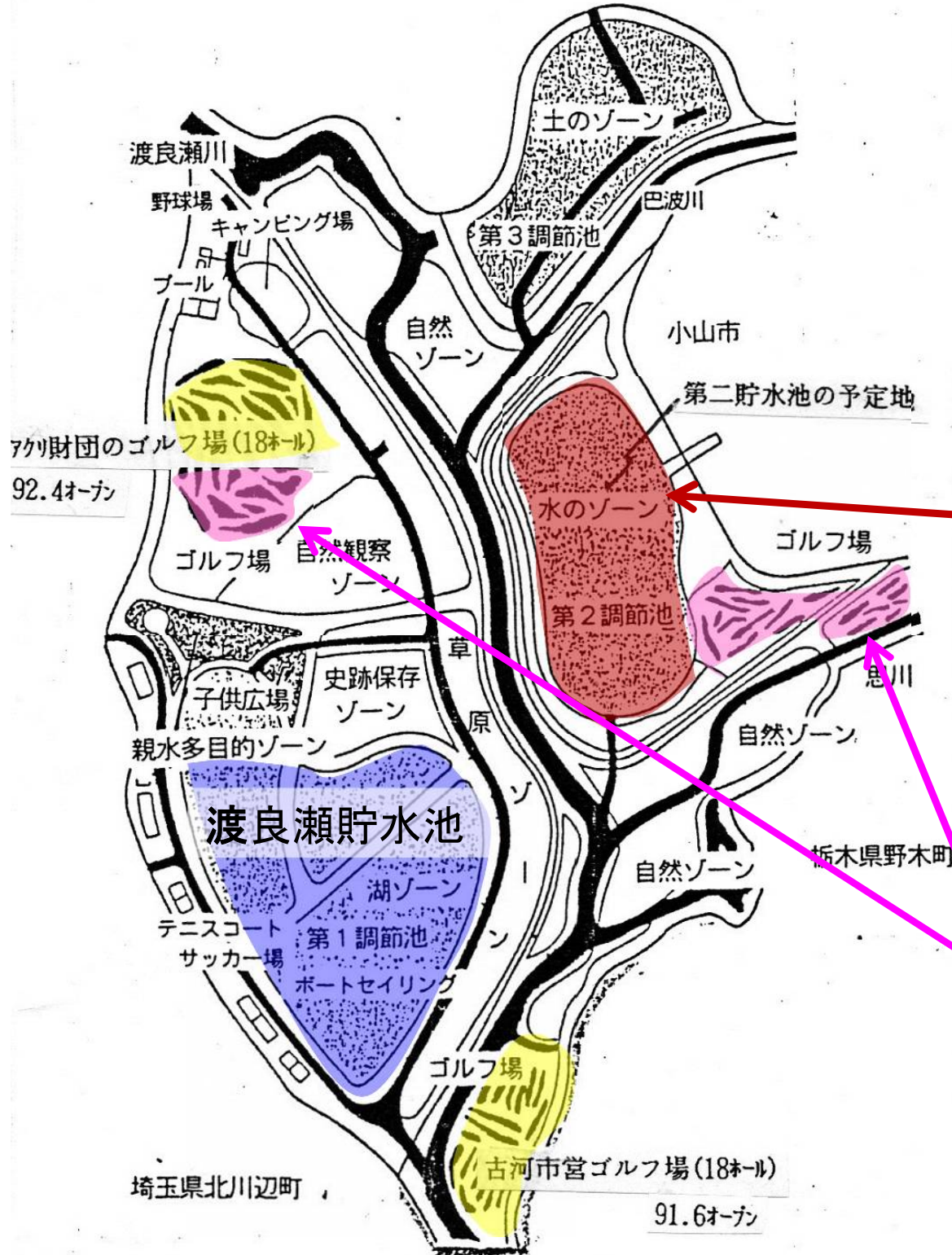
同協議会が十月六日、茨城、群馬、埼玉の四県に広がる広約三千三百畝の山形、中心部付近は田舎中村跡地がある。同協議会では、日本有数の内陸湿地で、約二百種に上る野鳥が多数の生物が生息している貴重な場所という。栃木や周辺四県、藤岡や周辺六市町、東武鉄道、足利銀行などが中心となって設立されたアクリメーション振興財団は、ゴルフ場建設など一大レジャーランドとして渡良瀬遊水池を開発している。協議会も渡良瀬総合開発事業として貯水池周辺で基盤整備を行っている。

# 1990年 渡良瀬遊水池の 更なる開発計画 (アクリメーションラン ド計画)

## 第2貯水池計画の浮上

利水容量	640万 $m^3$
治水容量	500万 $m^3$
貯水容量	1,140万 $m^3$

ゴルフ場の増設計画  
(その後、立ち消えになった。)



埼玉県北川辺町

91.6ホーナ

渡良瀬遊水地 第2貯水池計画

# 自然放置よいか

## 建設省 対立深まる 保護団体

栃木県は西側にまたがる渡良瀬遊水地へ、建設省が計画している第2貯水池の建設に、自然保護団体が「国が最大級のシンボルを築き上げるべきだ」として反対している。渡良瀬遊水地をめぐり利根川流域自然保護会(湯浅雄氏代表)は「国が自然を放っておくべきだ」として反対を表明している。建設省は「自然を放っておくべきだ」として反対を表明している。建設省は「自然を放っておくべきだ」として反対を表明している。

建設省の計画では、第1貯水池(面積約1000ヘクタール)の北側に、第2貯水池(面積約1000ヘクタール)を建設する。第2貯水池は、第1貯水池の水を貯留し、利根川に放流する。建設省は「自然を放っておくべきだ」として反対を表明している。建設省は「自然を放っておくべきだ」として反対を表明している。

かび臭が発生  
渡良瀬遊水地は約千三ヘクタールの面積を有する。このうち、約千ヘクタールは、水田として利用されている。かび臭が発生している。かび臭が発生している。かび臭が発生している。

# 4月にシンポ開催

## 審議委運営方法に反発

下野 1996.2.20



建設省が第2貯水池の建設を計画している栃木県など4県にまたがる渡良瀬遊水地。共同通信社ヘリから

住民には非公開  
一方、審議委員会は、長官会を開いたが、参加した住民からは、審議委員会の非公開運営に反発が示された。審議委員会の非公開運営に反発が示された。審議委員会の非公開運営に反発が示された。

# 第2貯水池計画 を中止させるため のたたかい

# 第2貯水池計画 の中止(2002年)

## 渡良瀬遊水地

# 第2貯水池計画を中止

## 需要低く水質に難

### 6年ぶり 審議委が最終答申

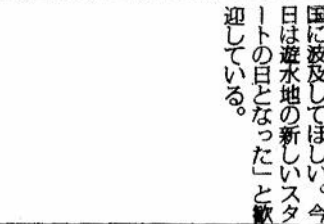
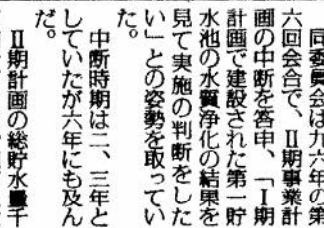
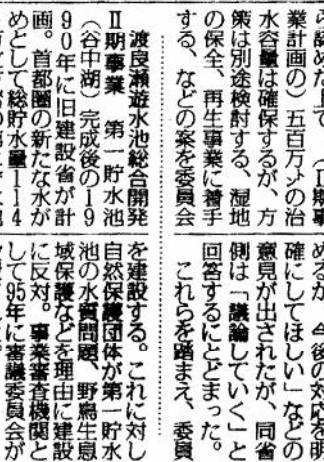
渡良瀬遊水地に治水と利水を目的とした第二貯水池(二・六平方キロ)を建設する是非を審議する渡良瀬遊水地総合開発(二期)事業審議委員会(委員長・藤井清興経済同友会代表幹事)は六日、小山市内で六年ぶりに第七回委員会を開いた。同委員会は、利水予定者から事業参加の意思表示がないなどの理由で、利水を目的とした第二貯水池建設中止を求める最終答申を国土交通省に提出した。これにより事実上、同貯水池の中止が決定した。

委員会は渡良瀬遊水地から委員二十四人が出席し、地に関係する本県の小山市、野木、藤岡両町や県市代表をはじめ都五県代表を招き、六月十二日の第六回事業審議委員会が提出した中間答申に対し、「利水を目的とした第二貯水池建設の必要性は低い」と自認した上で、「二期事業計画の」五百万立方メートルの治水容量は確保するが、方策は別途検討する。湿地の保全、再生事業に着手する、などの案を委員会に提示した。

この提示を受け、出席委員からは「第二貯水池を造らない方針と受け止めるが、今後の対応を明確にしてほしい」などの意見が出されたが、同委員会は「議論していく」と回答するにとどまった。これらを踏まえ、委員を建設する。これに対し自然保護団体が第一貯水池の水質問題、野鳥生息域保護などを理由に建設に反対。事業審査機関として95年に審議委員会が設置された。

会は答申案のまとめに入り、①特定多目的ダム事業としての同事業を中止し、治水については別途検討が必要の遊水地関連の河川事業を進める上で、地元住民の意見を十分に反映させていくなどとする答申を決定した。同委員会は九六年の第六回会合で、二期事業計画の中止を答申、「二期計画で建設された第一貯水池の水質浄化の結果を見て実施の判断をした」との姿勢を取っていた。中断時期は二、三年としていたが六年にも及んだ。二期計画の総貯水量千四百十万立方メートルは、国が八七

年の大濁水時の状況を基に治水と利水を含わせて算出したものであり、現在の水需要はこれを大きく下回っている。また、水質浄化にも問題を残している。さらに全国的なダム事業凍結の流れが同計画の中止を呼び込んだともいえる。今回の最終答申を受け、一部五県の住民をつくる渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会の高松健比古代表世話人は「ダム事業の建設計画がストップしたことの意味は大きく、この流れが全国に波及してほしい。今日は遊水地の新しいスタートの日となった」と歓迎している。



### 渡良瀬遊水地

# 「第2貯水池」が再浮上

## 治水目的 年度内に整備計画

渡良瀬遊水地に第2貯水池を造る計画が再浮上した。国土交通省利根川上流河川事務所の佐藤宏明所長は十五日、下野新聞社の取材に対し、第2貯水池について「河川法に基づき整備計画を本年度中にまとめ、できるだけ早く公表したい」と述べ、着実に着工を示した。同貯水池は渡良瀬遊水池修繕開発早期計画の中で、治水と利水を兼ねた多目的ダムとして位置づけられていたが、水需要の低下などで二〇〇二年に国土交通省が中止を表明。ただ治水部分は「引き続き検討する」としていた。新たな貯水池は遊水地の植生に大きな影響を与えることから、自然保護団体の反発も必至だ。

## 自然保護団体の反発必至

が中止されたこと、近年集中豪雨が頻発していることを挙げた。着工予定時期は明らかにしていない。

二期計画の中止後、渡良瀬遊水地は自然保護団体がラムサール条約の登録指定に動き、自然保護地としての側面が強調されてきた。佐藤所長は「環境に影響ないようにするのは可能。科学の粋を集めてやる」と述べ、自然保護団体との合意形成にも意欲を示した。

一方、都五県の住民らによる「利根川流域住民協議会」の高松健正古代表世話人は「初めて聞く話で当然認められない。第2貯水池を造れば貴重な湿地機能が失われることになり、国交省側が主導してきた湿地保全の議論を無視することに

なる。進行すれば内外の強い批判を招くだろう」と話している。

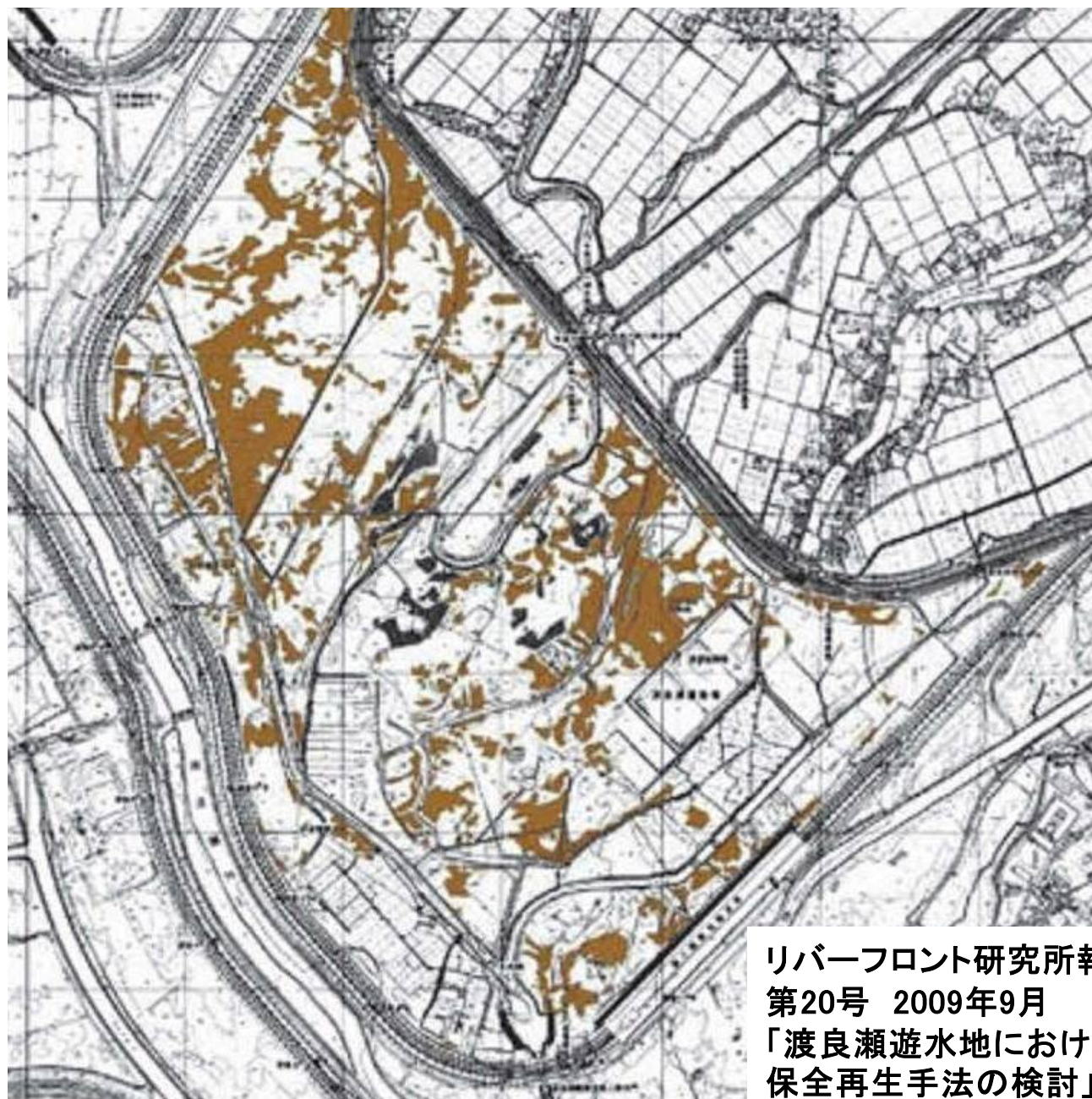
（11面に関連記事）  
ここが大きな以上、掘削するしかない」と述べ、第2貯水池の必要性を強調した。

# 第2調節池の治水容量増強計画の浮上(2005年) (500万m<sup>3</sup>の掘削)

第2調節池を掘削して洪水調節容量を500万m<sup>3</sup>増やす計画はその後、2010年の渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画により、事実上、なくなった。

# 5 渡良瀬遊水地の乾燥化問題

第2調節池のヨシ→オギ変化区域図（1975年→2005年）



ヨシ→オギ



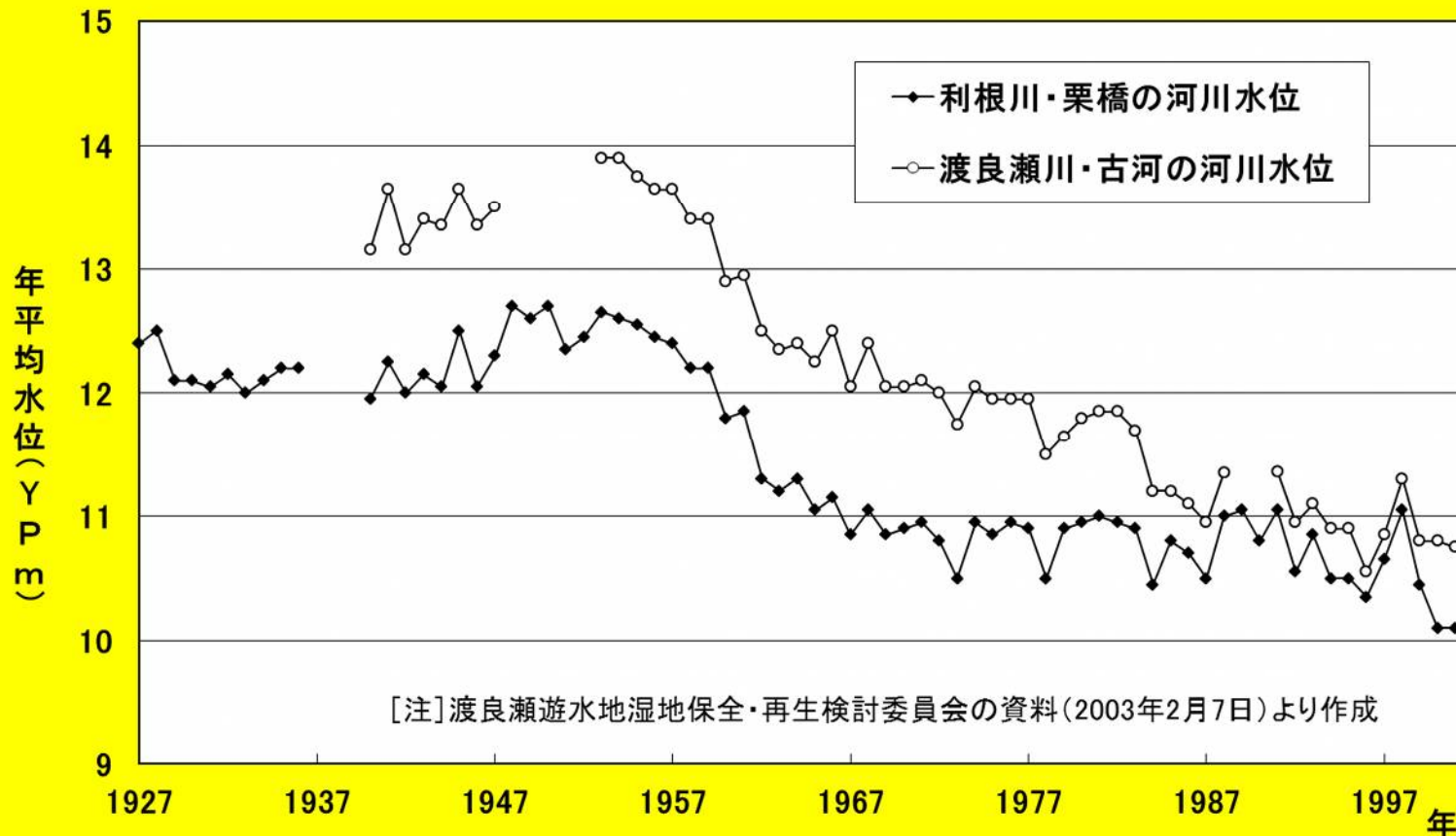
沼の消失でシギ・チドリ類も生息が困難に

リバーフロント研究所報告  
第20号 2009年9月  
「渡良瀬遊水地における湿地  
保全再生手法の検討」より

# 渡良瀬遊水地の乾燥化

## 乾燥化の主な原因

- ① 洪水調節池化により、遊水地に洪水が流入する頻度が激減。
- ② 渡良瀬川等の水位が低下し(砂利採取やダムの影響)、それに伴って地下水位が低下。
- ③ 工事のための排水路の設置



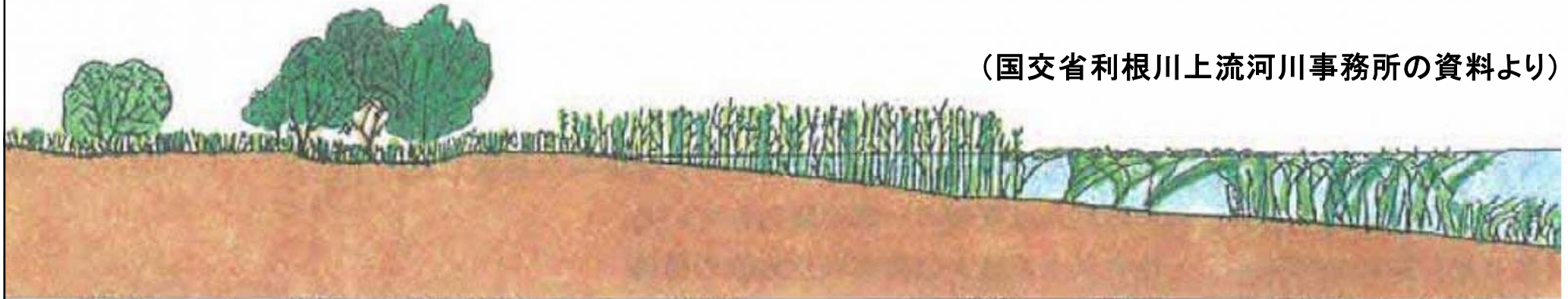
渡良瀬遊水池周辺の河川水位の経年変化



# 渡良瀬遊水地の乾燥化

## 渡良瀬遊水地の植物の確認種の変化(1941年→1985～95年)

(国交省利根川上流河川事務所の資料より)



乾性草地	水辺林	水辺、湿草地	湿地植物		抽水植物	浮葉植物	浮遊植物	沈水植物
ゴマノハグサ クマツツラ トモエソウ ノカラマツ ニオイタデ マイヅルテンナンショウ ハナヤスリ	タチヤナギ アカメヤナギ ジャヤナギ カワヤナギ イヌコリヤナギ ネコヤナギ コリヤナギ コゴメヤナギ	タカアザミ フジバカマ ハナムグラ ムシクサ ミゾコウジュ チョウジソウ サクラソウ タガラシ サデクサ オオイヌタデ ギョウギシバ オギ オトコゼリ ハマヒエガエリ	ホソバオグルマ オオアブノメ ヒメシロメ シロネ サルダヒコ ハッカ ヒメナミキ イヌゴマ エキサイゼリ ジムラニンジン タチスミレ ミズワラビ シソクサ ミズトラノオ ヒメハッカ クサレダマ ムカゴニンジン ヌマゼリ	アゼオトギリ ノウルシ タコノアシ アヅマツメクサ ヤナギタデ ポントクタデ ミソソバ サクラタデ シロバナサクラタデ ホッスガヤ ヨシ ヒエガエリ コイヌガラシ コキツネノボタン イトハコベ ヤナギヌカボ ヒナザサ ミズオトギリ	キクモ オランダガラシ ハス ミノゴメ マコモ ヘラオモダカ オモダカ ミクリ ガマ ミズアオイ コナギ イボクサ コウホネ マルバオモダカ サジオモダカ アギナシ	アサザ ヒシ ヒツジグサ ヒルムシロ ヒシモドキ ガガブタ ヒメビシ オニバス ウキシバ コバノヒルムシロ デンジソウ	ウキクサ タヌキモ ヒメタヌキモ トチカガミ アオウキクサ アカウキクサ サンショウモ	ミゾハコベ ミズオオバコ ホッスモ トリグモ エビモ ミズニラ ホザキノフサモ タチモ フサモ ミズユキノシタ キンギョモ ヤナギスブタ スブタ クロモ セキショウモ イバラモ イトモ センニンモ ササバモ ヤナギモ

※この植物種リストは、全て1941年調査において確認された種であり、そのうち1985年～1995年調査では確認されなかった種を□で示す。

1) 「橋本張植物誌」のうち「両岸湿地及び水中の主たる植物」1941より  
2) 大和田真澄氏による1985～1995年の調査結果より



沿岸帯に見られる湿地植物や沈水植物などが減少

## 6 渡良瀬遊水地まるごと博物館 エコミュージアム・プラン

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

遊水地のかげがえのない自然  
を保全しつつ、より豊かな湿地  
の再生をはかり、生物の多様性  
を高めていく。



# 渡良瀬遊水地まるごと博物館 エコミュージアム・プラン

渡良瀬遊水地まるごと博物館の機能を円滑に進め、充実をはかるためには、センター（中核施設）が必要です。

## センターの役割

### ① 総合的な企画・運営

- 住民、行政が同数で構成する運営委員会が企画・運営に当たる
- センターの設置・運営は原則として公費とする

### ② ビジターセンターとして

- 遊水地の概要・歴史・魅力を説明する展示・パンフレットを置く
- 案内図・ボランティア・ガイドをおく

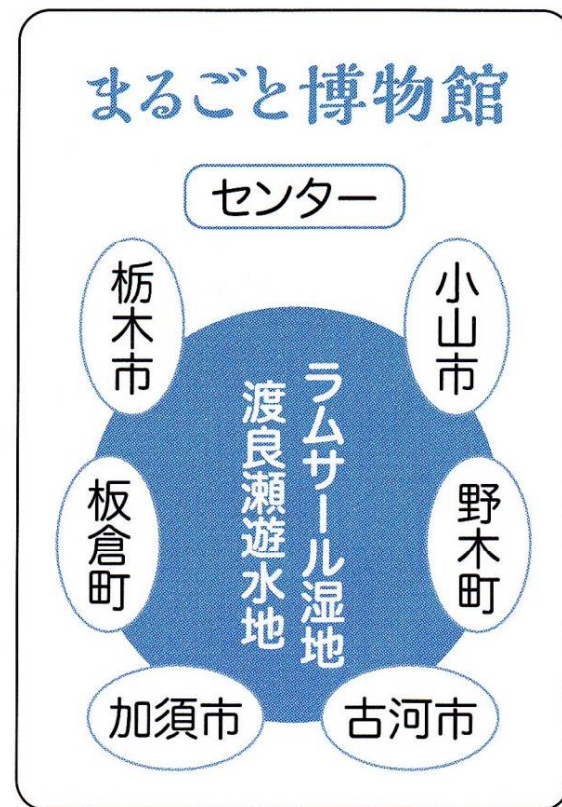
### ③ 学習センターとして

- 学習室・観察指導員をおく

### ④ 保全・管理・研究センターとして

- 研究員をおく

### ⑤ 4市2町の協議・協力により、既存・新施設の連携を図る



# 渡良瀬遊水池エコミュージアム・プラン (第2調節池)

第2調節池の自然を保全しつつ、さらにその多様性を高める計画

- 現状の自然を保全するために調節池内への立入りを制限する。このため以下のような観察路を設ける。
  - ・一周観察路(土手)
  - ・観察歩道: ガイドの案内で観察
  - ・ヨシ原観察水路: 舟によって観察
- 多様性を高めるために
  - ・水路、歩道沿いに干潟、沼、湿地などの環境を復元
  - ・ヨシ原保全水路: チョウヒ空堀地の保護、その他植物の保護のため水路を設置
- 利用者へのサービス(情報提供)をはかり調節池の保全を高めるために
  - ・湿地保全センターの設置



- ① 水路、浅瀬、沼を復元するため、必要最小限の掘削を行う。
- ② 水路を張りめぐらせ、浅瀬、沼に水を供給するようにする。(与良川の流量を増強)
- ③ 与良川の最下流部にゴム堰を設置して、水位を高める(洪水時は自動倒伏)

渡良瀬遊水池を守る利根川流域  
住民協議会

渡良瀬遊水池エコミュージ  
アム・プラン



シギ・チドリの浅瀬 (イメージ図) 大島英太郎・画

# 7 国土交通省による 湿地再生計画(第2調節池)

渡良瀬遊水地湿地保全・  
再生基本計画

ー 未来へつなげよう

渡良瀬遊水地の豊かな自然  
と治水の働きー

国土交通省  
利根川上流河川事務所  
2010年3月



# 国交省の湿地保全・再生基本計画による掘削の進め方

## 段階施工

掘削による湿地環境への影響を低減し、新たな知見を次段階にフィードバックすることを目的として、掘削順位と掘削範囲を段階的に定めた上で掘削を実施することとする。

## 順応的管理

掘削により地下水位が変化し、これに影響される動植物の保全・再生のメカニズムは複雑であり、当初想定した通りの結果は得られないことを念頭におく必要がある。このため、モニタリングにより掘削の影響を評価するとともに、環境学習等を通じて得られた情報も参考にして、掘削方法、掘削順位、掘削範囲を変更するなど順応的な対応を図る。

## モニタリングの体制

- 渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会
- 住民意見の反映

国土交通省が湿地保全・再生基本計画を策定し、湿地の保全再生を推進することになったことにより、ラムサール条約湿地の登録への道が開かれた。

## 『渡良瀬遊水地』が世界的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されました

2012年（平成24年）7月6日からルーマニア・ブカレストで開催されたラムサール条約第11回締約国会議（COP11）において、「渡良瀬遊水地」（登録湿地面積：2,861ha）が、国際的に重要な湿地の基準に該当したとしてラムサール条約湿地に登録されました。今後、渡良瀬遊水地の本来の目的である治水機能の充実を図りながら、多様な動植物が生息する湿地の自然環境を保全・再生し、その適正な利用を促進します。

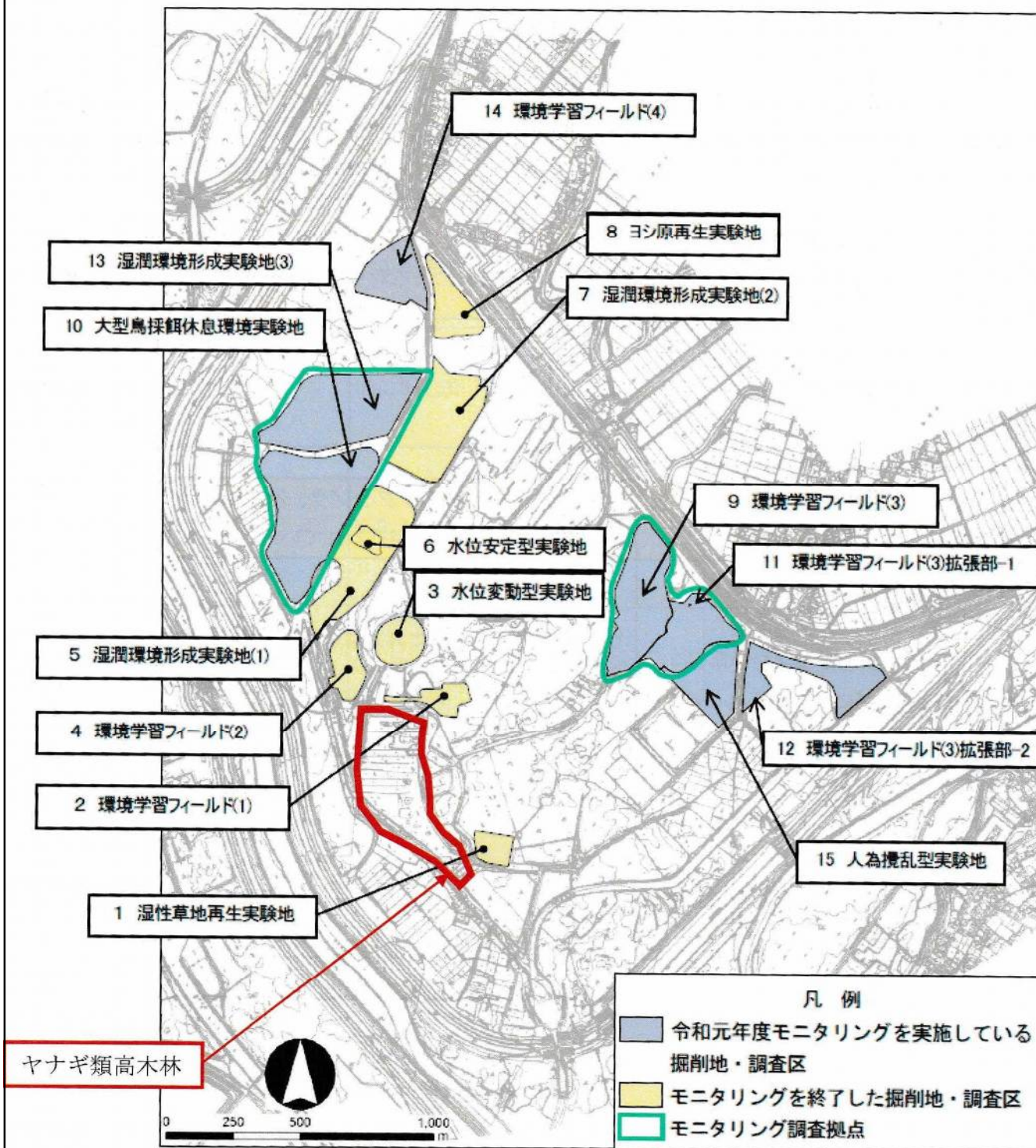
### 【渡良瀬遊水地が該当した国際的に重要な湿地の基準】

〈基準：各生物地理区内で、代表的、希少又は固有な湿地タイプを含む湿地〉

- 生物地理区（日本）を代表する低層湿原です。
- 本州最大のヨシ原を主体とする湿性草地が存在します。
- 河川の氾濫原を主な生育環境とするトネハナヤスリ、タチスミレなどをはじめとする希少種約60種を含む1,000種以上の豊富な植物種が生育する湿地で、本州以南の低湿地の代表例です。また、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類に掲載されているチュウヒをはじめとする猛禽類の越冬地やツバメのねぐらとして利用されています。



# 湿地再生のための 掘削地の位置図 (第2調節池)



(第12回渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会(2019年9月30日)の資料より)

図 1-1 掘削地の位置

## 湿地再生のための掘削地(第2調節池)

掘削地の名称	施工状況	面積(ヘクタール)
湿性草地再生実験地	H22.11完成	1.4
環境学習フィールド(1)	H22.5完成(北側)、 H23.1完成(南側)	2.8
水位変動型実験地	H23.3完成(左岸)、 H23.10完成(右岸)	2.5
環境学習フィールド(2)	H24.6完成	2.5
湿潤環境形成実験地(1)	H26.1完成	9.7
水位安定型実験地	H25.10完成	0.7
湿潤環境形成実験地(2)	H25.11完成(南側) H26.9完成(北側)	8.2
ヨシ原再生実験地	H26.9完成	4.2
環境学習フィールド(3)	H26.9完成	8.6
大型鳥採餌休息環境実験地	H28.12完成	13.6
環境学習フィールド(3)拡張部-1	H28.12完成	6.2
環境学習フィールド(3)拡張部-2	H30.3完成	3.8
湿潤環境形成実験地(3)	H30.3完成	12.2
環境学習フィールド(4)	H30.3完成	4.0
人為攪乱型実験地	H30.3完成	4.7
完成面積		85.1

第2調節池(約500<sup>ヘクタール</sup>)のうち、  
現況保全区域、掘削回避  
エリア(植物重要種保全区  
域)を除く掘削対象面積は  
243<sup>ヘクタール</sup>

現在までの進捗率は  
 $85^{\text{ヘクタール}} \div 243^{\text{ヘクタール}} = 35\%$

(第12回渡良瀬遊水地湿地保  
全・再生検討委員会(2019年9月  
30日)の資料より)

# 8 渡良瀬遊水地 についての最近 の記事



なつみずたんぼで餌をついばむ4羽のコウノトリ  
11月7日午後5時11分、小山市下生井(石川宣延さん  
撮影)

## 小山で確認最多 過去 4羽飛来

国の特別天然記念物のコウノトリが7日、渡良瀬遊水地の堤防に近い小山市下生井で4羽同時に確認された。同所では昨年2月から「ひかる」の愛称で知られるオスのコウノトリ1羽が定着しているが、4羽同時飛来は過去最多。

小山市によると、飛来した個体はひかるのほか、千葉県野田市で放鳥されたメスの「レイ」とオスの「カズ」、徳島県鳴門市生まれのメスの「歌」。足輪で確認できた。ひかるの写真を撮り続けている栃木市大平町西水代、無職石川宣延さん(72)によると、4羽が飛来したのは午後2時半ごろ。水を張ったまま水田を

休ませている「なつみずたんぼ」で、同6時ごろまでエサをついばんでいた。

ひかるは2日前から、生まれ故郷の野田市のこの通りの里に「里帰り」していたことが確認されている。石川さんは「ひかるが仲間を誘って連れてきた。このまま4羽が定着してほしい」と話していた。

(宗像信如)

下野新聞  
2019年8月8日

## 遊水地での保護や観察会

# 門戸広げ新たな活動

【栃木】市民団体「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会」は今年から、渡良瀬遊水池の動植物などについて広く学ぶ一般向けの「自然観察会&希少種保護活動」を新たに始めた。同協議会はこれまで、専門性の高い生き物調査会を開いてきたが、誰でも分かりやすい内容にし、多くの人に遊水地に興味を持ってもらおうと企画。初回の9日の観察会は市内外から25人が参加し、絶滅危惧種に指定される植物や昆虫を観察した。

### 栃木の市民団体

れ、専門家の話を聞きながら、一般には開放されていない掘削地を探索。絶滅危惧種に指定されるものは、植物はシヨウロウスゲ、野鳥ではサンカノゴイなどを観察した。

遊水池を初めて訪れた参加者もあり、興味深そうにしていた。

観察会は秋も開催予定。同協議会の猿山弘子事務局長(79)は「遊水池の少し中まで踏み入れると、また違った魅力が見つかる。次の世代にも活動をつなげていきたい」と話した。

会は、参加者が「植物」「昆虫」「野鳥」の3班に分か

（斉藤章人）

手軽な内容一般向けに

同協議会は遊水地で自然保護活動を行う市民らで組織。約30年前から遊水地の湿地再生を目的とした生き物調査を行っている。5年前からは市の助成を受け試験掘削地で調査を行い、生息する生き物の種類などの調査結果を国土交通省に提供してきた。

調査は一般の参加者も募っていたが、参加者からは「専門性が高い」などの意見があったという。今回からは気軽に遊水地の生き物に触れてもらおうと「観察会」とした。

生態系に影響を与えるヤナギの除去活動などを行う保護活動も初めて同時に開催した。

9日の観察

渡良瀬遊水池に生息する生き物の観察をする参加者ら



下野新聞2019年6月10日

# 家族でワクワク 催し多彩

## 渡良瀬遊水地

初夏を迎えた渡良瀬遊水地で、その7割超を占める栃木市が、谷中湖でのボート乗りや馬との触れ合い、人気の「三県境」ツアーな

ど、家族で楽しめる催しを続けて開く。

夏のワクワク大作戦！

9日午前10時～午後1時の開催で、四つの体験ミッションをこなす。希少植物のために外来植物を抜き取る「植物保全ミッション」を

行った後、グループごとに谷中湖でのゴムボートこぎ、自転車での中の島往復、ミニヨシズ作りに挑戦する。ミッション後はガイドブックなどがもらえる。無料。申し込み不要で当日、谷中村史跡保全ゾーン

に集合する。

遊馬の時間 9日午後1時半～同3時、遊水地内にある藤岡渡良瀬運動公園の芝生広場で開催。近くの乗馬クラブの馬との駆けっこや、またがったの記念撮影で馬と触れ合え、クラブ員による乗馬パフォーマンスもある。ポニーへのやさりも体験できる。無料、定員なし。直接会場へ。

ハートランドぐるり旅

15日午前9時～正午、県民の日の協賛事業として行う。人気の「三県境」や、旧谷中村合同慰霊碑、利根川へとつながる排水門、ヨシ原を見渡すウォッチングタワーなど、歴史や自然、冷水などを学べる場所を巡る。マイクロバスを用意し、県内全域から18人程度を募集。無料。受付は13日まで。

問い合わせと申し込みは市遊水地課(0282・62・0919)へ。「遊馬」については市藤岡スポーツ振興係(0282・62・1301)へ。

(平井隆昭)



「ワクワク大作戦」では谷中湖でボートをこぐ



ポニーと触れ合える「遊馬の時間」

# 渡良瀬遊水地 魅力を後世に

【小山】ラムサール条約に  
湿地登録された渡良瀬遊水地  
の魅力と価値を将来世代に引  
き継ごうと、遊水地周辺の市  
民団体や関係者が15の提言を  
まとめ、10日に市役所で記者  
会見して発表した。遊水地周  
辺の4市2町の首長と、管理  
者の国土交通省利根川上流河  
川事務所長を招いたシンポジ  
ウムを29日に開き、提言を基  
に議論する。

提言をまとめたのは、市内  
に事務局を置く市民団体「ラ  
ムサール湿地ネットわたら  
せ」（楠通昭代表）。「ワ  
イズユースで拓く渡良瀬遊水  
地の未来」と題し、昨年1月  
から4市2町で計8回開いた  
「わたらせ市民フォーラム」  
での議論が基になっている。  
国際的な湿地保全条約のラ  
ムサール条約は、湿地の賢明  
な利用（ワイズユース）を登  
録地に求めている。2012

小山の  
市民団体

## 「賢明な利用」へ15の提言

### 29日 4市2町首長らシンポ

年7月に渡良瀬遊水地が登録  
された当初は周辺自治体の一  
体感醸成が期待されたが「そ  
の後は各市町ごとに努力はし  
ているものの、ばらばらに活  
動している」（楠代表）とい  
う。

そのため提言では4市2町  
に対し、速やかに「ワイズユ  
ース基本計画」を策定して統  
一的な施策の遂行を求めた。  
具体的には専門知識を有する  
職員の配置や、各市町が養成  
しているボランティアガイド  
を4市2町の官民が連携して  
養成すること、害獣駆除の連  
携や公認ガイドブックの作成  
なども求めている。

提言書をまとめた同団体事  
務局長の浅野正富弁護士は  
「自治体の首長が意識を持つ  
て取り組めばかなりのことが  
できるはず。主に行政関係者  
にぜひ読んでもらいたい」と  
話している。

シンポジウムは栃木市藤岡  
文化会館で午後1時～4時  
半。入場無料で申し込みも不  
要。岡浅野正富法律事務所0  
2855・256577。

（宗像信如）